厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

高齢者のがん治療における倫理的課題の検討

研究分担者　田代　志門　　国立大学法人東北大学大学院文学研究科 准教授

研究要旨　本分担課題では、昨年に引き続き、高齢がん患者に対する意思決定支援ツールの倫理的妥当性に関わる論点である clinical nudge（患者に一定の選択の余地を残しつつも、望ましい方向に誘導すること）の倫理的正当化に関する文献を検討し、臨床現場で使用されるツール開発における倫理的配慮の要点をとりまとめた。

A. 研究目的

分担課題（高齢者のがん治療における倫理的課題の検討）では、高齢がん患者に対する意思決定支援に関する論点を抽出し、今後必要な対応を明確化することを目的とする。

B. 研究方法

生命倫理・医療倫理に関する文献調査を行う。

（倫理面への配慮）

文献調査であり特段の配慮は必要ない。

C. 研究結果

昨年度に引き続き、班会議への参加等を通じて広く高齢がん患者の意思決定支援に関わっている医療者と問題意識を共有しつつ、clinical nudge の倫理的正当化に関する論点を検討した。

その結果、高齢がん患者の意思決定支援においては、患者の「最善の利益（best interest)」によって clinical nudge を正当化する Gorin らの議論に依拠することが妥当であるとの結論に至った

また、この観点から臨床現場で使用されるツール開発における倫理的配慮の要点を検討した結果、(1) 患者にとっての「最善の利益」の観点からツール開発が行われること、(2) 対話プロセスの補完としての役割が明確化されること、の 2 点が重要であると結論付けた。

D. 考察

Gordin らの議論の特徴は従来のように「患者の真の選好（authentic preference)」の実現に訴えて clinical nudge を正当化するのではなく、患者の最善利益による正当化が有効であることを示した点にある。これにより、clinical nudge が適用される場面が限定され、共同意思決定（shared decision making）を補完するものという位置づけが明確化された。

以上の整理を踏まえて、今年度は昨年提案した clinical nudge 導入の際の倫理的留意点を再度検討し、最終的に (1) 患者にとっての「最善の利益」の観点からツール開発が行われること、(2) 対話プロセスの補完としての役割が明確化されること、の 2 点がやはり重要であるとの結論を得た。

ただしその一方で、実際のツール開発では高齢がん患者の「最善の利益」が何を指すのかを明確にする必要があること、その際に一方的に医療者によって最善が定義されないように留意する必要がある。また、対話プロセスとの補完として clinical nudge を位置づけた場合にも、どのような場合にそれが正当化されるのか、その閾値を設定することは現実には困難を伴う。そのため、これらの課題については、引き続き検討していく必要がある。

E. 結論

臨床現場で使用されるツール開発における倫理的配慮についての取りまとめを行い、「患者の最善」という視点及び対話プロセスの補完という位置づけの重要性を指摘した。

F. 健康危険情報
特記すべきことなし。

G. 研究発表
論文発表
なし。

学会発表
なし。

H. 知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）
1. 特許取得
なし。
2. 実用新案登録
なし。
3. その他
特記すべきことなし。